

一二三〇番

ちはやぶる

金の岬をかねみさき

過ぎぬともす

我は忘れじわれわす

志賀の皇神しかすめかみ

一二三一番

天霧らひあまぎ

日方吹くらしひかたふ

水茎のみづくき

岡の水門にをかみなと

波立ち渡るなみたわた

一二三二番

大き海のおほうみ

波は恐しなみかしこ

然れどもしか

神は齋ひてかみいは

舟出せばいかにふなで

一二三三番

娘子らがをとめ

織る機の上をおはたうへ

ま櫛もちくし

搔上げ栲島かかたくしま

波の間ゆ見ゆなみまみ